科目区分：大学院：学校臨床心理専攻，授業科目名：臨床心理面接特論Ⅰ
担当教員：信原孝司

授業の双方向性と自立的・自発的思考の育みを目指した授業実践

教育実践総合センター・信原孝司

1.授業の概要

本授業は，臨床心理面接の専門性について，特に精神分析的心理療法の側面から学び，理解を深めることを目的としている。また授業の到達目標は，心理臨床の専門性に関する知識を習得し，臨床心理面接への理解を深めることである。この科目は，臨床心理士を目指す大学院学生（学校臨床心理専攻臨床心理学コース）の必修科目であり，履修者の全てが臨床心理士資格の取得を目指して履修している。

授業では，初回に授業内容と進行の予定をシラバスを下敷きとして提示している。これは，学生が前期の見通しを持って授業に取り組み（予習し），関連した項目の復習に取り組みやすくなることを意図している。以下は今年度の講義内容である。

(1) オリエンテーション
(2) 臨床心理面接での問題理解と面接構造１
(3) 臨床心理面接での問題理解と面接構造２
(4) 臨床心理面接における技法
(5) 精神分析について
(6) 映画を通して臨床心理面接を考えるⅠ
(7) ディスカッション
(8) 心理療法の初期面接
(9) 心理療法の基本技法　- 質問・明確化・直面化・解釈 -
(10) 面接中期１　- 転移・逆転移 -
(11) 面接中期２　－ 転移・逆転移 －
(12) 映画を通して臨床心理面接を考えるⅡ
(13) ディスカッション
(14) 面接終期　－ 抵抗・気付き・ワーキングスルー -
(15) 前期振り返り・レポート提出

2. アンケート結果

学生が提出したレポート中の授業評価を中心に以下に振り返った。学生からのコメントでは，臨床心理面接の進展に沿った留意点を知ることが出来，有意義であったとのコメントが多かった。その一方で，質疑やディスカッションの時間配分が十分で無かったとの課題も残った。授業者側の工夫としては，授業内で取り上げる内容の精査を行い，キーワードを事前提示することや，おおよその時間配分を事前提示すること等が考えられる。

授業形態では，授業者からの講義，質疑・ディスカッション，心理臨床課題を考える映画の視聴とディスカッションという全体構成は支持が多く，今後もこの授業形態を継続したい。

3. 授業時間外学習の促進

授業では，担当者と学生とのやり取りが双方向となるように意識し，授業外学習も促進出来るように工夫した。例えば，

Ⅰ．毎回の授業の最後には，学生からの質問を受け付けた。質問には担当者が全て答えてしまうのではなく，学生達とディスカッションし，曖昧な部分については宿題を出すようにした。

Ⅱ．授業で学んだことを振り返るために映画を用いた。翌週のディスカッションの準備として，各自でA4で１枚のレポート作成を課した。

等である。

4. 総括

授業では講義内容が多かったり，ディスカッションが弾んで次回に延長することもあったが，授業予定を組み直す等して柔軟に対応した。課題としては，ディスカッションから派生したテーマを次回授業で取り上げることが出来れば，より理解が深まったかも知れない。

なお，本授業のレポート課題は次の３つであった。(a)前期授業から臨床心理面接について学んだ点を論考せよ，(b)授業で学んだことを踏まえて映画をあなた独自の臨床心理学的視点から論考せよ，(C)授業評価として前期授業の実施内容・方法についての感想を自由に書いて下さい。

(a)(b)の課題によって授業全体を学生に振り返ってもらい，(b)の課題によって，自立的・自発的な考えを文章にまとめるよう促した。(c)では，学生からの声を来年度の授業への反映を留意した。学生からは授業の実施内容・方法を評価する声も多かったが，評価に関わるレポート内では伝え難い部分があったかも知れない。(c)は評価対象外であることを示す等の工夫も考えられる。